

暫定まとめ：iPhoneでの文書作成／書類作成法（2026版）

Apple Intelligence が iPhone に付いている

- ・作文・整形・要約・言い換えが可能
- ・リッチテキスト ⇔ Markdown の変換器として使用可能
- ・実質的に インポート機能（整形取り込み）として運用できる

iPhoneは“変換器”として使える

- ・文章をiPhoneに通すだけで Apple 書式（メモ／Pages）に落とせる
- ・iPhone単体の編集力不足を AI が補完

編集は Windows からでも可能

- ・iCloud 経由で Windows ブラウザから編集可能
 - ・メモ（Notes）
 - ・Pages
- ・ただし Apple Intelligence は iPhone / 対応Mac で動作

Apple文書として資産化できる

- ・Appleフォント前提の見栄えになる
- ・メモ／Pages形式で保存、修正も速い
- ・“Apple書類資産”として蓄積可能

出力（エクスポート）が強い

- ・Pages → PDF出力が綺麗、そのまま提出物にできる
- ・メモ → 共有でテキスト化・搬送が速い
- ・Wordを経由せずに完結可能

テンプレ化が効く

- ・Pagesで雛形（手順書・仕様書・賞状など）を作成すれば次回から爆速
- ・構成の立ち上げコストを削減可能

画像（スクショ）運用が強い

- ・iPhoneで撮影／スクショ → そのまま貼付
- ・手順書・記録・説明資料が作りやすい

音声入力が強い（片手・寝ながら運用）

- ・粗い入力を作り、Apple Intelligence で整形すると文章になる
- ・入力負荷が小さい

「原本」と「閲覧／提出用」を分けると事故が減る

- ・原本：Markdown（壊れにくい）
- ・提出・閲覧：メモ／Pages（綺麗、読みやすい）
- ・変換は万能ではないため、二層構造が安全